



基本理念

安心して相談できる  
心と脳の専門医療を目指します

人権を尊重した、安心かつ納得できる、精神医療とケア  
最新の医学的知見に基づいた、安全で理にかなった治療  
政策医療を中心とした、社会のニーズに対応できる医療  
高度かつ先駆的な精神医療のための、研究・教育・研修  
自然に囲まれ、ゆったりと落ち着いた、快適な治療環境  
地域の関連機関と協力・連携した、心の健康作りの形成

**M E N T A L**  
**Mental Care**  
**EBM**  
**National Policy**  
**Teaching**  
**Amenity**  
**Local Network**

Contents

|                                |      |
|--------------------------------|------|
| 新年のご挨拶                         | 2~3  |
| 第15回 医療観察法関連職種研修会              | 4    |
| 第20回地域交流会を終えて                  | 5    |
| 研修報告                           | 6    |
| 第73回 国立病院総合医学会                 | 7    |
| 感染管理認定看護師となって                  | 7    |
| リレーマラソンに参加しました                 | 8    |
| 「Swan スワン 吸わん！」菊池病院敷地内禁煙への取り組み | 9~10 |
| 『デイケアつばさ』活動紹介~心をつなぐハンドベル♪~     | 11   |
| 外来診療のご案内                       | 12   |

発行所：〒861-1116 熊本県合志市福原208  
独立行政法人国立病院機構 菊池病院  
編集発行：広報誌編集委員会



ホームページ  
QRコード



# 新年のご挨拶



## 2020

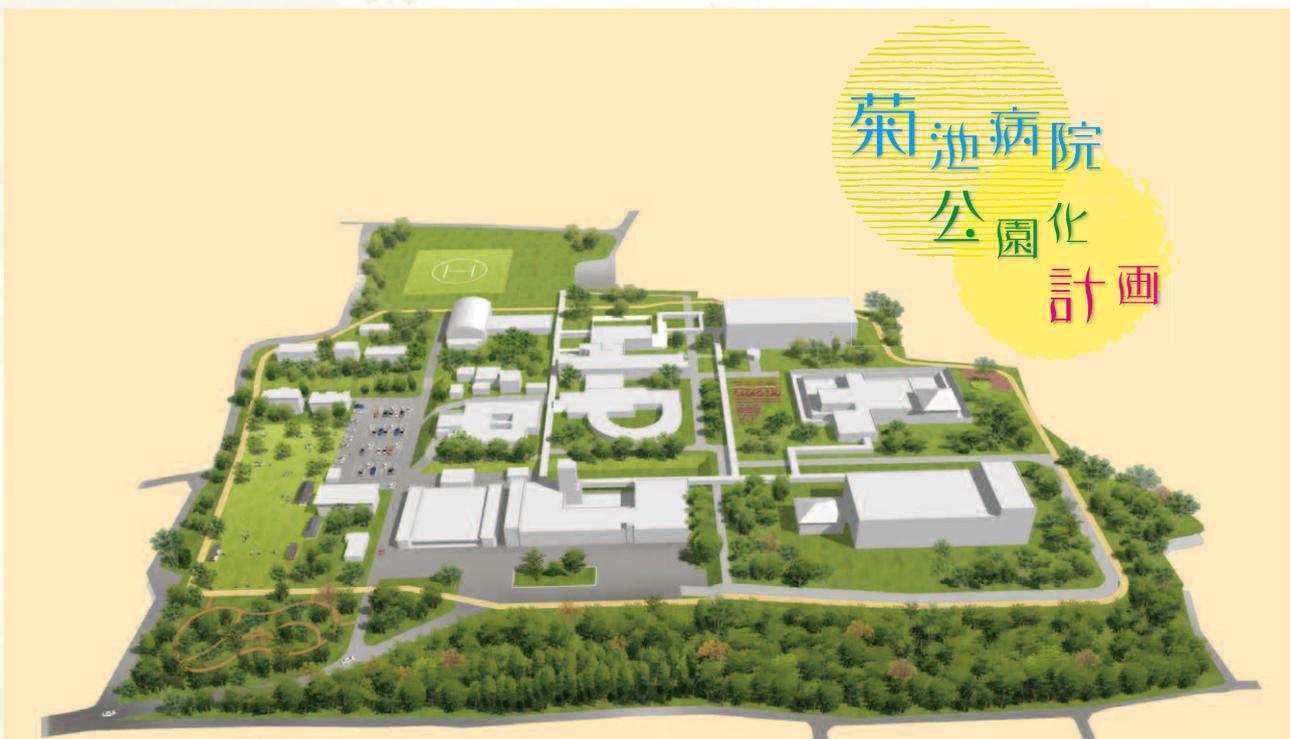
院長 渡邊 健次郎

皆様、あけましておめでとうございます。2020年（令和2年）の干支は子（ねずみ）年です。中国の『漢書』では、「子」は、繁殖する・うむという意味をもつ「孳」という字からきており、新しい生命が種子の中に萌（きざ）し始める状態を表していると言われています。まさに、当院も新病棟が完成したばかりで菊池病院という種の中に新しい可能性がたくさん含まれているのを感じております。新しい時代に、菊池病院を創設された先輩たちの志を尊重しつつ、この土地と人が持つ可能性を信じて公的精神科病院としての使命を果たすために、職員一同が患者様中心の医療にワンチームとなって取り組みたいと思っております。本年も当院をよろしくお願い申し上げます。

### （今年の目標）

2020

- ① 新病棟で新しい医療に取り組むこと
- ② 病院全体を「公園化」して敷居の低い（バリアフリー）の精神科を目指すこと
- ③ 健全経営を継続すること
- ④ 若い精神科医の研修の場としての役割を果たすこと
- ⑤ 熊本県の精神科医療において公的病院としての役割を果たすこと



## 「新年のご挨拶」

事務部長 大石 和男



皆さま、新年明けましておめでとうございます。

昨年は、元号が令和に変わり、天皇陛下のご即位のパレード、ラグビーのワールドカップ開催などの華々しい出来事一方で台風、豪雨等による激甚災害の発生等色々なことがありました。今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されますので、悪しき出来事が少なく、良き出来事が多い年になってほしいものです。

当院では昨年12月末に新病棟建替え整備工事が竣工し、開棟の運びとなりました。

目指したのは「安全で快適な療養環境と働きやすい職場環境の両立」です。

職員の皆さまの知恵を結集して一緒に「新菊池病院」を目指したいと思います。

次に経営状況です。

入院患者数は、計画の達成が極めて厳しい状況です。しかし、年度末まであと少し期間がありますので気を引き締めて、経費の節減等により少しでも経常収支率、収支差ともに最終的には、年度計画に近い数字になるように頑張りたいものです。

私事も一言。

定年まであと1年3か月となりました。色々な思いが交差する中、最終的には今の仕事を悔いの無いように終わらせることが一番なのかなと考えております。

「残り少ない人生、どうせなら大いに楽しむ」「エンジョイ☆NHQライフ」です。

最後に最近、大好きな言葉を紹介します。

「今日という日は残りの人生の第一日目である」  
(作者不詳)

## 「新年のご挨拶」

看護部長 竹之内 須賀子



新年明けましておめでとうございます。

熊本地震から、3年9ヶ月が過ぎようとしています。菊池病院では、被災した病棟の建て替えが行われ、このたび、2019年12月には新病棟が竣工し、今年はいよいよ病棟移転の運びに至りました。これまで皆様方には多大なるご協力を頂き、大変感謝しております。本当にありがとうございました。

現在は、218床と病棟を集約して運用していましたが、今後は重症心身障がい者病棟・精神科病棟が順次増床になり、239床となる予定です。地震後の病棟集約等により、狭い病棟でご不便をおかけしていましたが、これからは環境も一変します。患者の皆さまの思いに寄り添い、職員一丸となってよりよく生きることを支えることができる支援に取り組んでいきたいと考えています。

さて、今年は庚子（かのえね）となります。調べてみると、庚の年は「新しい環境へ適応する体制を整える年」となるようです。今年は、病棟移転や診療報酬の改訂などを控えていま

す。新しい環境に合った効率的で効果的な看護体制等を構築していく必要があります。残すべきものを変えるものもしっかりと見極めるために、今までのやり方やあり方と向き合い検討を重ねていきたいと思っています。

子の年は「新たな局面に対応できる人材の育成・活用に取り組むとよい年」だそうです。現在、地域の多様なニーズに応えられる地域包括ケアシステムの構築が進められています。菊池2次医療圏において看護職に求められる役割が遂行できるように、地域の皆さまと協働し、活躍の場も広げていきたいと思っています。まずは、精神科病院の看護職として、専門的知識と優れたケアが実践できる看護職の育成を更に強化を図ります。

また、最近是不安定な世界情勢や、災害が頻発しています。不確実性が高く、先の見えにくい時代と感じています。こんな時代だからこそ、人と人のつながりが大切と考えます。昨年のラグビーワールドカップで「ワンチーム」の言葉がこんなにも人々の心に響いたのは、現代に望まれているものであると思いました。看護者には、患者家族の思いや多様な価値観を尊重した協調性のある対応が求められます。基本ですが、人間愛を持ち暖かな心で支援する人財の育成にも取り組み、質の高い看護が提供できるように努めて参りたいと思います。

今年もどうぞよろしく願いいたします。

# 医療観察法関連職種研修会

医療観察法関連職種研修会事務局代表  
庶務班長 藤山 哲也



令和元年9月27・28日の2日間、くまもと新都心プラザホールにて医療観察法関連職種研修会を開催しました。この研修会は、全国の医療観察法病棟を保有している施設が平成17年度から毎年輪番で事務局を担い、研修参加者が約500名の研修会です。

前回の当番事務局であった大阪精神医療センターより苦労話を交えて引き継ぎを受けたところ、当院の最大の欠点である職員数が少ない施設に研修会事務局が担えることが可能であるのかとても不安でした。幹部会議で研修会の報告を行った後、通常業務を担いながら皆様に喜んで頂ける研修会となるよう研修会委員会を開催し準備を始めました。

研修会資金は研修費参加費であり多数参加いただかなくては資金不足となることから、早期にホームページを立ち上げ熊本における研修会の情報発信を速やかに行いました。次に、研修会のテーマを【医療観察法15年～復興熊本からの新たなる一歩～】と定め、さいがた医療センター院長 村上先生の基調講演、肥前精神医療センター院長 杠先生の司会をメインとし、併せて研修会シンポジスト選出を行いました。一般演題については、早期にホーム



2019年  
9月27日(金)・28日(土)  
くまもと新都心  
プラザホール  
菊池病院

ページを立ち上げた効果があったのか、予想を遙かに超える倍の登録申込みがありました。お断りすることなく全ての演題が発表出来るようプログラムを研修時間配分設定致しました。

一方、研修会参加登録ですが、一般演題のように登録数が伸びずにいたところ、「ラグビーワールドカップがあるため、早急のホテルの手続きを」と、アナウンスしたところ、一時的に登録数が増え喜んだのですが、その勢いは直ぐに止まってしまい、研修日まで後2ヶ月となった時点で目標の半分の登録でしたので、とても不安な日々でした。

前担当番施設においても、研修会日間際まで研修参加者数が増えなかったとのことでしたが、8月に入り研修参加登録者が増え続けることで、資金がショートすることなく研修会開催となりました。

おかげさまで、北は北海道札幌市、南は沖縄より、400名を超えます研修生に火の国熊本まで多数来ていただき、大盛況に研修会を終了することが出来たことを感謝致します。



# 第20回 地域交流会を 終えて

地域医療連携室 米村 律子

去年は、例年より少し遅く、やや肌寒さを感じる季節となった秋晴れの令和元年11月16日（土）に第20回地域交流会を開催しました。

去年は20回目という節目の年でもあり、「令和」、そして新院長になっての初めての交流会でした。年々参加者も増え、露店やステージイベントを楽しみに参加してくれる方も増えています。

午前中は講演で、渡邊院長の「ストレスとこころの健康」のお話でした。ストレスの多い現代社会の中で、どのようにストレスと向き合っていけばいいのか、もし気持ちが落ちそうな時どうしたらいいのか、笑いを交えた分かり易い講演に、参加者は時折うなずきながらメモを取り、講演最後には質問もされていました。

午後は、人権擁護団体「コッコロ隊」の参加もあり、人気キャラクター「コッコロ」の登場に子供達も大喜びでした。いつもなら車が並ぶ駐車場に露店が並び、手作りのお弁当、パン、たこ焼きや小物等が並び、例年好評の菊池病院オリジナル認知症予防カレーや綿菓子が準備され、子供たちが美味しそうに頬張る姿に周りも自然と笑顔になりました。

一方、屋内のステージ上は、コッコロ隊の楽しく賑やかなオープニングで始まり、続いてデイケア利用者さんのハンドベルや踊り、杉水千寿会の琴、歌、大人の銭太鼓の演奏、優雅なフラダンス、合志中学校合唱部の皆さんの美しいコーラスが響きわたり、楽しく癒されるひと時となりました。

ご協力いただきました地域の皆さまに心からお礼申し上げます。

今年、いよいよ菊池病院も新病棟に移転します。職員一同、これからも菊池病院が皆様にとって、身近な病院、安心して任せられる病院になるよう精進して参りたいと思いますので、今後とも何卒よろしくお願い致します。



## 研 修 報 告

### 第30回 西日本認知症高齢者対策研修（PSW課程）が開催されました

今回、認知症高齢者対策研修 PSW 過程に参加させて頂き、誠にありがとうございました。研修を受講する前は、不安や緊張がありました。が、菊池病院職員皆様の暖かい歓迎を受けたおかげで、緊張も和らぎ受講することができました。

研修では、多職種からの講話、病院見学・実習、事例検討会が設けられており、今まで県外の精神科病院を見学したことがなかった私には、とても新鮮な体験となりました。その中でも印象的だったのが、認知症病棟内で患者さんが集う場所に丸テーブルが使用していたことでした。どの角度からも表情が見えることや、患者さん同士が馴染みの関係を構築できるような工夫がなされていて、患者さん同士の会話や笑顔が多く見ることが出来ま



ウェルフェア九州病院 PSW 中山 愛奈  
した。

また、鹿児島県外の PSW や保健師の方々と交流出来たことで、新たな視点や考え方を身につけることができた貴重な時間にもなりました。

今回の研修を通し、患者さんに寄り添う姿勢や PSW の役割・基本的な対応・福祉職として患者さんに対し、権利擁護の視点をもって治療や支援に携わらなければならないと改めて実感し、学ぶことが出来ました。これから専門職として、多くの知識を持ち、患者さんに温かい気持ちで思いやりを持った PSW になれるよう日々頑張りたいと思います。

このような貴重な研修を受講する機会を作って頂き、感謝を申し上げます。ありがとうございました。



▲ 懇親会の風景

### 第31回 西日本認知症高齢者対策研修（PSW課程）が開催されました

近年、超高齢社会を背景にますます認知症医療への需要が高まっています。菊池病院では1977年(昭和52年)に認知症治療病棟を開設し、当初から認知症の人の状態に合わせた「理にかなったケア」を提唱するなど、認知症への対応に注力してきました。

認知症高齢者研修が始まった当初、認知症ケアの草分けである室伏君士先生は、「人は認知症になっても、その人らしく生きようとしている姿がみられる」こと、「老いの心理と記憶障害に伴う神経心理に沿った関わりや集いの中でお互いに癒されていく『なじみの関係』が重要である」こと、「説得より納得」等の基本原則が認知症ケアに大切であると提唱してきました。

本研修では、看護師コース、PSW コースの2つを毎年開催しており、当院で培ってきました認知症ケアについて研修を通して学んでいただき、認知症医療に従事する方の専門知識と技術の向上を目的としています。PSW コースでは、治療に関わる院内多職種からの講義に加え、

精神保健福祉士 吉田 耕生

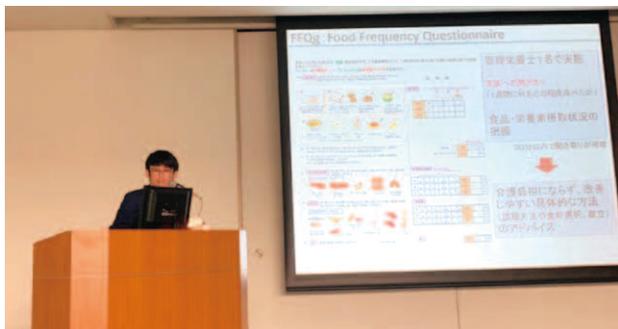
院外からは地域包括支援センターから地域の視点での講義、及び病棟での実習と事例検討会が行われます。31回目となる本年度は10月9日(水)～11日(金)までの3日間研修が行われました。研修初日は懇親会を開催し、西日本の各県から参加された研修生同士、熱く語り合いました。研修最終日には事例検討会が行われ、白熱した意見交換の中で日々の業務の振り返りや新しい視点、気づきを得られたのではないかと思います。同時に「なじみの関係」を体感されたのではないのでしょうか。県内外の PSW が一同に集い、意見交換や交流が行えることは、この研修における最大のメリットだと思います。

この研修を通して、自分自身が日々の業務を振り返ることができ、県内外の同輩とネットワークが築けた事に感謝したいと思います。来年度も多くの方に参加頂けるよう、より充実した研修となるように私たちも努めたいと思います。

# 第73回 国立病院総合医学会

演題「外来アルツハイマー型認知症患者の身体状況および食品栄養素摂取状況の把握」

加來 正之



## 1. 今回の取り組み（研究発表）について

今回の取り組みを行った理由は2点ありました。

1点目に、当院に入院される患者様は、入院時に食事摂取量低下や体重減少がみられる方が半数近くいます。その状況下で、「外来時点では栄養状態は良いのか？外来で栄養相談ができる環境をつくることで患者様の外来及び入院時の栄養状態は良くなるのか？そもそも、在宅では食事の準備で困っている人も多いのでは？」と考えました。2点目に、認知症疾患医療センターの役割を担って

いる当院ですが、外来の認知症患者様への栄養食事指導件数は年間0件であり、管理栄養士としての役割を再考させられました。そこで、患者様の栄養や食事の質の向上および管理栄養士のことを患者様や御家族にも知ってもらうきっかけとして本取組みを開始しました。

## 2. 発表者の一言コメント

外来通院者への栄養食事指導を通して、メディカルスタッフと情報共有する機会が増え、チームでの介入が可能になったと同時に、患者様の御家族からも管理栄養士を認識していただけたと感じています。また、現状を把握し、医師へ提案しやすくなりました。（詳細は来年度発表予定ですが、患者様の食事摂取量の減少や食事準備にかかる負担感については軽減できました。）

外来通院中にお食事でお困りの皆さん。一度、管理栄養士への相談はいかがですか？

## 感染管理認定看護師となって

昨年、感染管理の認定看護師になりました上田です。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。9月より月に2日間、活動日を頂き、感染管理活動を開始しました。

活動開始にあたっては、研修で学んだ内容を活かせるように、計画してきたつもりでしたが、実際は難しい点が多くあります。病院の構造上や、患者背景など感染管理を行う上で、どう対応したら良いのかと悩みました。しかし、最近ではICTのメンバーや自部署のスタッフに相談しアドバイスを受ける事で、一つ一つ、小さい事から問題を解決できていると感じています。

感染管理は一人ではできません。ICTなどのチームや、リンクナースなどの病棟での実働部隊も必要です。患者さん、スタッフの安全を確保する為にも病院全体で行うことが重要と考えます。また一人ができな

## W2看護師 上田 恭平

ければ、感染管理は破綻してしまいます。ワンチームの精神で取り組みたいと考えています。

そこで私が、この菊池病院でどのような活動を行うことが望ましいのかを考えました。病棟ラウンドや多職種との会話の中から、自分自身が病院内の把握を十分にできていない事、マニュアルが現場で活用できていない事に気が付きました。今後、徐々にではありますがマニュアル等を見直し、活用できるものにしたいと思います。

最後に、まだまだ未熟者ですが頑張りますので、皆様のご協力と、なんでも気が付いた点は共有できるようにコミュニケーションを図り、感染管理を実現していきたいと思っています。





# リレーマラソンに参加しました

看護師 今村 由香  
看護師 那須 広輝  
主任医療社会事業専門員 寺師 絵里香

1月3日(日)の秋晴れの風が心地よいシーズンに、当院でランニング部を結成した。

職員14名(男性7名、女性7名)と二人の可愛い娘ちゃんがあわった16名で、42.195kmをタスキで繋ぐ【熊日リレーマラソン】男女混合の部に参加してきました。

競技は、1週が2kmのトラックを21周します。スタジアムは、沢山の企業や病院の団体が色とりどりの応援旗を立てながら沢山の声援が聞こえてきます。

合同練習は行わず、ぶっつけ本番で望んでいることから、各ランナーの実力が未知数であり、どの程度のタイムで戻って来るのか想像もつかない状況ですが、「4時間以内にゴールするぞ!」と目標を掲げ、ランナー16名は大きな決意をしました。

さて、10時となり競技がスタート!「パン」というピストルの音でランナー達が一斉に走り出しました。当院スタートを飾ってくれたのは、普段から筋トレや自主練を重ねた筋骨隆々の若手男性看護師です。チームの応援席を通過する際は、にこやかな笑顔で手を振る余裕の表情を見せ、リズミカルな走りで足取りが軽く、2kmを8分を切る速さで余裕の姿でタスキを繋ぎました。前半戦は、コソ練を重ねた男性陣ランナーが続き、皆さん上位でのタスキリレーでした。7周目には、いよいよ小学生が登場します。

怪我をさせてはいけないと思い、「ゆっくりでいいよ」と声をかけましたが、予想をはるかに上回る速さでタスキを繋いでくれました。

次に女性陣がスタートします。女性陣と言えば・・・『タスキを繋ぐことを楽しむこと!、走った後には美味しい焼肉を食べること!』を考えな

がらのランニングです。平均11分のタイムでタスキリレーが出来ました。最終ランナーに、当院の美人栄養士がゴールに飛び込んで来ました。

結果は「3時間31分51秒」という好タイムでした。目標を大きく上回ることが出来、参加した皆で喜び合いました。

院長先生や、参加したランナーの沢山のご家族も応援に駆けつけてくださり、とても嬉しいリレーマラソンでした。

施設において、職種や部署が異なることから、交流する機会が少ない参加メンバー達でしたが、競技を通じて親睦を図りながら、皆さんで楽しく走ることを実感した大会でした。次回の大会に向けて、お互いの練習量などのエピソード情報を交換したことも刺激になったと思います。今年は、昨年よりもっと練習し、タイムが1秒でも縮められるよう、そしてもっと楽しく走れるよう頑張っていきたいと思

ます。

今回は、2月に行われるRKK女子駅伝大会に参加します。女性だけの大会ですが、男性ランナーにも練習に参加して頂き、刺激を受けながら上位を目指して頑張りたいと思いますので、(上位は冗談ですが)応援よろしくをお願いします。

大会会場に来てくださった院長先生をはじめ、職員家族の方々、応援して頂きありがとうございました。

この文章を読んでいただいた菊池病院の皆さん、楽しくダイエットをしたい方、楽しく健康を維持したい方、ランニング部はいつでも部員を募集していますので、是非一緒に走りましょう。



# 「Swan スワン 吸わん！」

## 菊池病院敷地内 禁煙への取り組み



内科医師 白川 妙子

改正健康増進法の施行を受けて、日本国内すべての病院の敷地内禁煙が義務付けられました。そのスタート日は2019年7月1日。

社会全体が「禁煙」の方向へと舵を切っている中、一般的に精神科病院では禁煙は困難とされ、患者様のみならず職員の喫煙率も高いというのが現状で、当院でもこれまではあまり積極的な対策はなされていなかったようです。だけど法律で決まった以上従わなければなりません。

この時点での当院の喫煙状況は以下の通りでした。

1：入院患者の病棟内での喫煙 — ウィング1、6、ユニットには病棟内に喫煙室があり、患者が喫煙。

2：屋外の喫煙所 — 敷地内には複数の屋外喫煙所があり、ここで単独外出できる入院患者、外来患者、デイケア通所者、面会者、外来などの付き添い者、出入り業者、工事関係者、病院職員が喫煙。

「残念ながら7月1日に敷地内禁煙を全面的に実施するのは無理だが、移行措置として屋外喫煙所を1か所だけ設けて、その後全面禁煙に向けて取り組んでいこう」— 私が着任した日の朝のミーティングでこのような発表がなされました。6月18日、法令施行のわずか2週間前のことです。

ミーティングの直後、渡邊院長から禁煙対策推進の任務を仰せつかりました。呼吸器内科医とし

てこれまで微力ながらも「禁煙」に取り組んできた私に、その役目を期待されたのは当然だったのですが、時間がない中、課題は山積み！正直、戸惑いました。

まずは禁煙の必要性を皆で再確認し、一緒に取り組もうという機運を高める必要があるようです。そこで早速、着任の翌週、2度にわたって職員を対象にレクチャーを開きました。急遽計画したので参加者はさほど多くはありませんでしたが、その場で禁煙の決意をされた方もおられました。

あっという間に法令施行日、7月1日が来てしまいました。

この日までには「敷地内全面禁煙」には至らなかったものの、以下の点が改善されていました。

1. ウィング1の喫煙室は閉鎖され、ウィング1病棟内での喫煙は全面禁止となった。

2. 屋外喫煙所は1か所のみとなった。ここが利用できるのは患者様、面会者、付き添い者に限られ、出入り業者、工事関係者、病院職員は敷地内全面禁煙となった。

だけどこれではまだ不完全です。敷地内禁煙を実現するためには全職員を挙げて取り組まなければなりません。

そこで立ち上げたのが「チーム・スワン」。まずは、核になる人たちが「実働部隊」として動くことが重要かつ実効性があると考えたからです。「スワン」は白鳥、だけど「吸わん」からきたダジャレです。

チームのメンバーとして、それぞれ関係する部署から志ある者が集い、6名の「少数精鋭部隊」が結成されました。

まず取り組んだのが、知識の普及のための活動です。喫煙の健康被害、受動喫煙の問題、禁煙の具体的方法などについて、リーフレットやチラシを配ったり、ポスターを貼ったりして、患者様や職員に訴えかけていきました。

それでも、ポスターやチラシより、もっと効果的なのは専門科の「生の声」でしょう。そこで、熊本で最も熱心に、かつ専門的に活動されている「くまもと禁煙推進フォーラム」にご相談し、同会主催の「禁煙治療セミナー」を開催しました。8月14日、当院管理棟2階会議室にて「精神病院の禁煙」をテーマに開かれたセミナー。熊本市民病院の橋本洋一郎先生、たかの呼吸器内科クリニックの高野義久先生のお話も大変分かりやすく勉強になりましたが、特に、精神科単科病院でありながら早くから敷地内禁煙に取り組んでおられる「明生病院」の薬剤師・阿部裕子先生のお話は大変参考になり、当院でもできるのではないかと、やっという、という思いを共有できたのではないのでしょうか。

そのころまでには、院内各所に「敷地内全面禁煙」の掲示もなされ、次第に職員のみならず、患者様たちの認識も広まってきました。

一方では、喫煙をしている入院患者様に対しては、主治医、病棟看護師の全面的協力を得て、禁煙へ向けた働きかけをしていきました。その結果ウイング6、ユニットの喫煙室も9月いっぱいまで閉鎖しましたが、心配されたような混乱などはありませんでした。

あと、残るは屋外の仮喫煙所のみです。ここを主として利用しているデイケア通所者に対しては、禁煙へ向けたプログラム実施することとなり、その準備期間も含めて、仮喫煙所の閉鎖を2019年12月16日と決定。これで、「菊池病院敷地内禁煙」が達成されます。

それでも、その後に隠れて喫煙したり、吸い殻ポイ捨てによる火災などの危険性も懸念されます。今後とも引き続き対策を進めていかなければなりません。それを見据えて、11月1日より「チーム・スワン」は「菊池病院敷地内禁煙対策委員会」（通称；スワン委員会）へ格上げされました。委員長に就任した田中亨治先生を中心に、引き続き積極的に活動していきます。まずは、敷地内禁煙を実施・継続することを第一の目的としていますが、今後さらに喫煙による健康被害、受動喫煙の害などの認識を高め、患者様、職員が無理なく「禁煙」・「卒煙」できるようにサポートすることも重要な役割になることでしょう。

「チーム・スワン」は敷地内でまだ喫煙している状態の時に結成され、そのシンボルマークは「ブラックスワン」でした。その活動が実って「敷地内全面禁煙」はとりあえず達成されました。今後は、さらに患者様や職員が、敷地内にとどまらず禁煙・卒煙して、皆が「吸わん」ようになって、菊池病院自体が美しい「スワン＝白鳥」に変身できるように願ってやみません。





## 『デイケアつばさ』活動紹介 ～心をつなぐハンドベル～

阿部 豊輝

平成30年5月、新たなプログラム『音楽グループ』が立ち上がりました。

音楽で何をするか？スタッフやメンバー間で話し合い、バンド演奏や歌などの意見が出る中、「皆で協力して大きなものを作り上げたい」そのような思いからハンドベルへのチャレンジが始まりました。

開始当初は一人一音。自分一人の力では何も奏でることができない難しさ。思い描いていた演奏とは程遠く、曲になるかさえも疑わしい日々が続きました。それでも地道に練習を重ね、参加者も徐々に定着しました。初めての演奏曲はアメージンググレイス。お世話になった方々をデイケアに招待し、想いを込めて精一杯奏でました。

これを皮切りに、病院イベントの地域交流会、各病棟での誕生会やクリスマス会等様々なイベントを訪問し演奏を続けました。いつも強引な売り込み参加でしたが、聞いて下さる皆様の温かい拍手や言葉に支えられながら訪問演奏を続けました。

そして、結成からわずか半年。ついに病院外の事業所でも演奏を行うことが出来る様になりました。ただ、活動方法は相変わらずの強引な売り込み依頼。近隣の高齢者施設や障がい者支援施設を中心に訪問させて頂きました。皆様の

ご迷惑になっているのでは？と不安に思うことも多々ありましたが、温かい応援に励まされ各事業所へ訪問させて頂いては自分たちの腕を磨き続けました。

しだいに先方からの演奏依頼も出始め、令和元年11月、ついに「三気の里開園記念祭」の式典に招待頂きました。当日は、三気の里利用者の方々と共に歌とハンドベルの共演を披露し、本当に貴重な体験を得ることができました。

音楽グループがハンドベルを始めて1年半が経過しました。訪問演奏の回数は20回を超え、レパートリーもずいぶん増えました。時間の経過とともにメンバーの顔ぶれも少しずつ変わり始めています。

演奏で皆様から頂いた拍手や賞賛の声は、メンバーに自信を与えてくれます。観客に笑顔を貰い、笑顔を送り、そして、力をつけたメンバーはデイケアから就労等の次のステップへと進んでいきます。

音楽グループのハンドベルは、この先も休むことなく発表会の日々が待ち受けています。慌ただしくもひたすら地道に活動を続けていくことなのでしょう。いつしか、音楽グループのハンドベルがデイケアつばさの伝統になり、デイケアメンバーや卒業生が誇りに思える、その様な日が来ると信じています。



# 外来診療のご案内 GUIDANCE OF OUTPATIENT CARE

(2020年1月1日現在)

| 項目           | 月            | 火            | 水               | 木    | 金               |
|--------------|--------------|--------------|-----------------|------|-----------------|
| 新患           | 田中(亨)        | 坂西<br>(午前診療) | 中村              | (宇野) | 渡邊              |
|              | (西尾)         |              | 三浦<br>(午前診療)    |      | 坂西<br>(午前診療)    |
| もの忘れ<br>外来新患 | (塩沢)         | 塩沢           | 塩沢              | 塩沢   |                 |
| 再来           | 塩沢           | 渡邊           | 渡邊              | 坂西   | 田中(亨)           |
|              | 三浦<br>(午後診療) | 中村           | 宇野              | 西尾   | 塩沢              |
|              |              |              | 三浦<br>(午後診療)    |      | 田中(恭)<br>(午前診療) |
|              |              |              | 田中(恭)<br>(午後診療) |      |                 |

### 【専門外来】

- ◆ 老年期・・・担当医：塩沢
- ◆ 物忘れ外来・・・認知症予防と認知症に対する専門外来を行っております。
- ◆ MRI検査・・・当院にてMRI検査を受けることができます。

### 【受診方法】

- ◆ 診察については予約制となっております。
- 初診の方：地域医療連携室で予約を行っております。電話番号は096-248-2111
- 再診の方：診察後、次の診察日をご予約下さい。予約の無い方は外来に電話で予約して下さい。

### 【診察時間】

- 受付 8:30～15:00
- 診療 8:30～17:00
- 休診 土・日曜、祝祭日、振替休日、年末年始（12月29日～1月3日）



### 交通機関

- JR豊肥本線三里木駅下車  
タクシー10分
- 熊本空港よりタクシー約20分


**独立行政法人 国立病院機構 菊池病院**  
 〒 861 - 1116 熊本県合志市福原 208  
 TEL 096 - 248 - 2111 FAX 096 - 248 - 4559  
<https://kikuchi.hosp.go.jp/>